

研究・調査報告書

報告書番号	担当
237	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Japan: alcohol today 今日のアルコール 日本	
執筆者	
Higuchi S, Matsushita S, Maesato H, Osaki Y.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2007 Dec;102(12):1849-62.	
キーワード	
アルコールの有用性、アルコール消費、アルコール依存、アルコール政策、アルコール製造、健康問題、日本、予防計画、値段、社会的問題	
要 旨	
<p>目的： この論文は、日本かイギリスどちらかの文献で論議されたアルコールの有効性、アルコール消費、有害な影響、アルコール政策と日本の予防計画の概略を示す事。</p> <p>方法： データは政府による調査、統計の結果と 2000 年から出版された論文 (MEDLINE と医学中央雑誌の双方に認められた) の 2 つより収集された。これらのデータはその質に基づいて算定され、要約された。ここで紹介されたいくつかのデータは、今回のレビューのために作成されたものである。</p> <p>結果： 一人あたりのアルコール摂取量はこの 10 年以上の間で増加傾向にあり、尚高めである。飲酒人口の変化は急速に増えており、特に女性における飲酒は急激な増加である。断面データによると飲酒は深刻な健康問題と社会問題に影響している。現在ある長期的なデータも、特に飲酒の問題は交通事故の増加に関連していると示す。アルコールの政策や予防は、これらの問題を十分に解決するにまで至っていない。特にアルコール飲料の高い有効性は、販売や広告、増える値段表示に対する制限の欠如を含めて指摘されていない。</p> <p>まとめ： このレビューはアルコールの有効性や飲酒などの基本的な情報提供であり、日本で既存のアルコールを制限する指標の改良を促進するかもしれないし、新しいアルコールを制限する指標が出来る事を推奨することになるかもしれない。この研究は飲酒とその結果に関して長期的なデータの不足、いくつかの重要な変量を示しており、障害者を社会に適応させるように、日本のアルコールに対する包括的な理解を進めなければいけない事を示唆した。</p>	